

観光社会資本の事例

テーマ：日本三大奇橋「祖谷のかずら橋」と善徳護岸工

【施設の状況写真】

善徳護岸は、地域の貴重な観光資源である「かずら橋」の直上流に位置するため、コンクリート護岸の表面を自然な岩肌にした擬岩パネルで覆い、観光地周辺の景観に配慮すると共に、遊歩道を設けることにより親水性にも配慮された施設となっている。



【施設の利用写真】



施設周辺の河川敷において、水遊びを楽しむ観光客

【観光資源としての利用状況】

祖谷のかずら橋は、昭和30年に民族資料として国の重要有形民俗文化財の指定を受けると共に、日本三奇橋の一つに数えられおり、年間50万人が訪れる貴重な観光資源となっていることから、三好市では「かずら橋」周辺を観光拠点とした「かずら橋周辺整備事業(谷合の広場)」が進められている。

テーマ：日本三大奇橋「祖谷のかずら橋」と善徳護岸工

【社会資本の基礎データ】

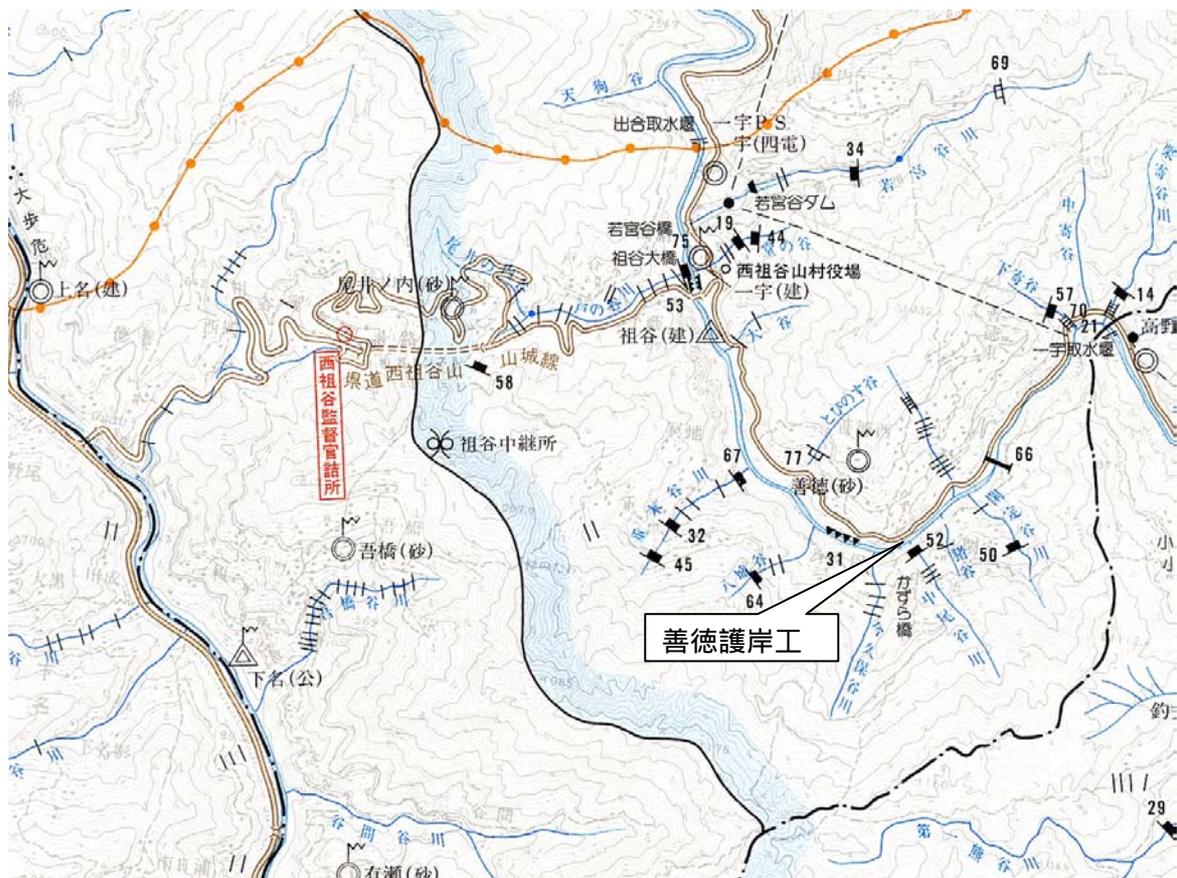
名称 善徳護岸工
 所在地 徳島県 三好市 西祖谷山村 善徳地区
 事業名 直轄砂防事業
 事業主体 国土交通省 四国地方整備局 四国山地砂防事務所
 事業期間 平成8年～平成14年

【社会資本の役割・効果】

治水効果

当地区は、日本でも最大級の破砕帯地すべり地であり、直轄において昭和57年から対策事業が施工されている。善徳護岸工は、溪岸の浸食を防ぎ、土砂流出を防止するとともに、地すべり地の脚部を固定することにより、他の対策工とあいまって、地すべりの発生を抑制している。また、周辺は、「かずら橋」を中心とした徳島県西部でも最大の観光地であることから、本施設の完成は、地域住民の安全安心を確保することはもとより、観光資源を保全し、観光産業を発展させ、地域活性化や雇用促進等の重要な役割を果たしている。

【位置図】



四国山地砂防事務所ホームページ：<http://www.skr.mlit.go.jp/sabo/>